

全国大会報告

平成五年五月二十日(木)／於・長田神社 参集殿

本年の全国大会は丁度金子直吉翁の没後五十周年に当る為、神戸長田神社に於て同翁の五十年祭祀をメインテーマとして挙行された。大会は二部に分け、第一部を金子翁の五十年式典とし、第二部を通常の全国大会とし、何れも長田神社の参集殿に於て催はされた。今回は出席者も一般會員準會員の外金子家の御親族の方々並に協賛して頂いた旧鈴木系の会社十社の代表の方々も出席され、総員九十名に達し、盛大に就り行われました。

第一部式典は安東浄氏の司会により開始され、辰巳会幹事長横田周作氏の開会の辞に続き、鈴木治雄会長の御挨拶があり、長田神社津田宮司殿の司式により金子直吉翁の五十年祭が神式により厳肅に就り行われた。巫女の方々による神楽舞も行われ、会長以下各代表による玉串奉奠の後、金子家を代表されてお孫さんの田中万葉氏より丁寧な謝辞が述べられ、記念撮影で第一部を終了した。

直ちに別室にて第二部全国大会に移り、同じく安東浄氏に司会にて開会した。幹事長の開会の辞に続き、会長鈴木治雄氏の御挨拶があり、幹事松下重男氏より会務報告が行われた。昨年の全国大会以降の會員の慶弔に関する報告、本年五月十三日に祥竜寺に於て物故者の法要合祀を幹事会で行った旨を伝え、最近一年間の物故者の御冥福を祈つて黙禱を捧げた。続いて、神戸商工会議所会頭神戸製鋼所相談役の牧冬彦氏より来賓代表として御挨拶を賜り、別に掲載しました様に、同氏が神戸製鋼所社長をなさつて居られた時代に、鈴木商店や金子翁に關し桂芳男教授に依頼して、社員に盡力された事など、眞に有意義なお話がありました。

その後直ちに宴に入り、日商岩井会長速水優氏の音頭にて乾杯、有

志の方々のスピーチもあり、平常お目にかからなかつた方々との永しぶりの邂逅にて、場内各所に歓談の花が咲き、時間の経つのを忘れさせる賑やかな会食となりました。午後三時となり、遠路の方々も居られる事として閉会と致しました。幸に天候にも恵まれ事故もなく無事に大会を終る事が出来ました。が、来年も又お元氣にて大会に御出席頂くようお願い申上る次第です。

平成五年 全国大会 (金子直吉翁 五十年祭祀)

平成五年五月二十日(木)／於・長田神社 参集殿

〔第一部 金子翁 五十年式典〕		司会進行役	安東 浄
一、開会の辞			横田 周作
一、会長挨拶			鈴木 治雄
一、金子直吉翁 五十年式典		宮司	津田 信基
一、謝辞		金子家代表	田中 万葉
一、記念撮影			
〔第二部 全国大会〕			
一、開会の辞			横田 周作
一、会長挨拶			鈴木 治雄
一、会務報告			松下 重男
一、来賓代表挨拶			牧 冬彦氏
〔宴〕			
一、乾杯			速水 優氏
一、スピーチ			横田 周作
一、閉会の辞			以上

平成五年 全国大会出席者名簿

平成五年五月二十日(木)／於・長田神社 参集殿

阿部 孫治	北尾 素子	福沢 有一
山本 富美子	藤田 健作	
木村 毅	松本 三四郎	
源 島ふさ	松下 重男	
小松 豊秀	森 好子	
鈴木 治雄	柳 弘成	
田代 よし子	山本 秀子	
高畑 明	河野 芳子	
高畑 千代子	横田 周作	
高畑 薫幸	横田 周作	
喜代	吉田 春江	
武井 八重子	山室 雅子	
立花 實	金子 裕	
建部 哲也	共同通信記者	
田辺 満寿子	名波 正晴	
千頭 元一	朝日新聞記者	
拓植 五百刀	砂沢 薫子	
西川 明子	以上五十八名	
西村 鏡次郎		
西内 富美子		
坂東 みどり		
金子 貞子		
加地 彦太郎		
楓 雅之		
落合 力		
奥田 さき		
松田 義子		
釜崎 とし子		
小原 多喜子		
小野 晶子		
植田 三男		
今村 三郎		
井上 好正		
芦原 有一		
安東 恒子		
安東 浄		

故金子直吉翁五十年祭祀 御親族様関係出席名簿 (順不同)

平成五年 辰巳会全国大会
平成五年五月二十日(木)／於・長田神社 参集殿

金子直毅	金子静子	田中 二郎
金子修六	甚一	内藤 鶴子
貴答 邦子	岡国	金子 誠治
貴答 恵子	須磨子	金子 孝蔵
川瀬 祥子	田中 萬葉	諏訪 竹市
川瀬 たみ	晴子	以上十八名

故金子直吉翁五十年祭祀 協賛会社関係出席名簿 (順不同)

平成五年 辰巳会全国大会
平成五年五月二十日(木)／於・長田神社 参集殿

日商岩井(株) 会長 速水 優	日本発条(株) 日本支店長 三宅 洋
日商岩井(株) 副会長 池田 宗吉	日 塩(株) 社長 北野 浩央
日商岩井(株) 社長 西尾 哲	日本精化(株) 社長 宿本 哲三
(株)神戸製鋼所 相談役 牧 冬彦	東邦金属(株) 社長 田嗣 郎
(株)神戸製鋼所 秘書 中西 均	(株)ニチリン 会長 水上 泰年
太陽鋳工(株) 社長 鈴木 孝一	鈴木薄荷(株) 社長 楠 正明
太陽鋳工(株) 専務 城戸 喜夫	新日本金属化学(株) 専務 藪 孝

平成5年 全国大会 収支報告

(兼故金子直吉翁 50年祭祀)

平成5年6月16日

辰巳会本部事務局

総出席者	92名	} 日商岩井(株)・(株)神戸製鋼所・太陽鋳工(株) 日本発条(株)・日本精化(株)・日塩(株) 東邦金属(株)・(株)ニチリン・鈴木薄荷(株) 新日本金属化学(株)
協賛会社関係	17名	
親族関係	16名	
会員関係	57名	
報道関係	2名	

1. 収 入

特別協賛金	11社	1,850,000円
会員関係特別会費	¥5,000×57名	285,000円
合計		2,135,000円

2. 支 出

式典費用一式	250,000円
Party 費用一式 (別紙明細)	1,536,696円
短冊複製費用	82,400円
記念写真焼増 ¥1,200×85枚	105,060円
雑費その他 (保存版ビデオ複製代含む)	71,074円
合計	2,045,230円
	(総額1人当り ¥22,230.76)
差引余剰金	89,770円

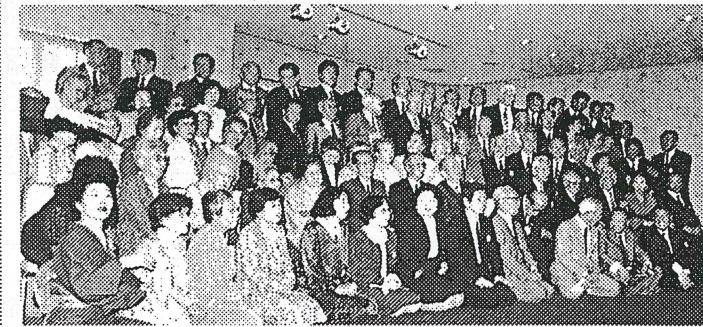
※特別協賛金捻出会社 (順不同)

日商岩井(株)・(株)神戸製鋼所・太陽鋳工(株)・帝人(株)	30×4社=120
日本発条(株)・日本精化(株)・日塩(株)・東邦金属(株)	
(株)ニチリン・鈴木薄荷(株)	10×6社=60
新日本金属化学(株)	5×1社=5
計	11社=185

以 上



平成5年5月14日 物故者法要 於：祥龍寺



「鈴木商店」しのび92人参加 禮

明治、大正時代に育て上げた番頭金子直吉氏の死去五十年目に当たるに神戸に本拠地を置き、昭和の初め、金融恐慌で倒産した総合商社鈴木商店のOB会「辰巳会」の総会が二十日、神戸市長田区の長田神社で開かれ、関係者ら九十二人が集まった。今年と同店を三井、三菱などと並ぶ一流の商社

鈴木商店のOB会「辰巳会」に集まった関係者ら神戸市長田区の長田神社で

に育て上げた番頭金子直吉氏の死去五十年目に当たることから、速水優・日商岩井会長や牧冬彦・神戸商工会議所会頭も訪れ、故人をしのんだ。

鈴木商店は、砂糖・雑貨の貿易商として一八七〇年(明治三年)に創設され、日露戦争、第一次世界大戦で急成長を遂げた。中央区栄町通にあった本店は一八八一年(大正七年)八月の米騒動で焼き打ちにあったことでも有名。一九二七年、金融恐慌のおおきい影響を受けてあっけなく倒産したが、傘下の企業はそれぞれ再出発。日商岩井(当時は日商)、神戸製鋼、帝人など

ど経済大國日本を支える代表的な企業に育った。「辰巳会」は今回で三十四回目となり、百十九人の会員の平均年齢は八十八歳。金子氏を知るニチリン相談役の横田周作さんなどは、父親も鈴木商店員で、親子二代の辰巳会員。「今年九十歳になる人が、倒産した昭和二年には二十四歳です。本当に遠い昔の話になってしまいました」と話した。また、金子氏をしのぶため、東京などからも関係者や金子氏の親族らが駆けつけ、小磯良平画伯が描いた金子氏の肖像の前で黙とう、昔話に花を咲かせていた。

朝日(朝刊) '93・5・21 (兵庫・神戸版)